



写真/文 青沼 豊晶

# ALPS PRESS

2009年 6月 22日

13号



長野県塩尻市塩尻町260番地 TEL.0263 - 52 - 1150

## 雑草との追いかっこが続きます。

圃場の管理作業の中で忘れてならないのが下草刈り。

自社農園は草生栽培を行っており、除草剤を一切使用していません。圃場管理のためには、小まめに草を刈るほかありません。広く平らなところは乗用の草刈機で、木の周りや土手はエンジン刈払い機で刈ります。雑草は逞しさでよく比喻されますが、毎年のことながらその凄まじさには閉口します。一通り終わったかと思うと、最初のところはどこを刈ったかわからない有様。収穫まで雑草との追いかっこが続きます。

草生栽培：果樹園に下草を生やす圃地管理法。土壌流亡の防止、有機物の補給が目的の中心。草の根が地中深く入るので「自然の深耕機」的な役割もはたし、小動物・微生物も増えるとされる。

before

草刈をしていると椋鳥(むくどり)やカラスが寄ってきます。エンジン音を怖がることもなく、草を刈り終わったところに舞い下りては草の下や土の中にいた虫をついばみます。彼らは草刈の後、ご馳走にありつけることを何時、誰に教わったのでしょうか？不思議です。



椋鳥

after

4月に新植したシャルドネとメルロー。

これから容赦なく照りつける夏の太陽の下、棚の高さをこえるほどぐんぐん伸びることでしょう。



シャルドネ



シャルドネ



メルロー



メルロー

こちらは、別の自社農園のシャルドネとメルロー。

シャルドネは10日ほど前に開花。メルローは咲き始めです。可憐な白い花で、ここに堅い実がつきます(結実)。結実後、ブドウの実は急速に大きくなります。